

# 自己点検・評価報告書

日本語教育機関名：与野学院日本語学校

点検・評価実施日：2021/3/1

実施責任者：校長 谷 一郎

実施担当者名(役職)：教務主任 大知里 弘美、事務長代行 花田 涼

## <総論>

昨年度に引き続き、規程に基づいた運営は、全体的に安定している。そのため、自己点検評価も目が厳しくなり、従来気にならなかったところも気になるようになった。それにより、新たな課題も見いだせたため、引き続き改善を継続していく。

## <教育の理念・目標>

理念は、教員会議、校内での掲示を通じて、十分に周知されている。

## <学校運営>

規程に基づいた運営は引き続き機能している。一方、中長期の運営計画、年度予算の編成と執行ルールの明確化については、大きな前進はなく、引き続き 2021 年度において改善を模索する。

## <教育活動の計画、実施>

教育活動の計画、実施面においては、規程通り安定して実施されている。理念、教育目標に基づいた教育体系の実践のため、2019 年度に、授業時間内での日本社会への適応教育を開始したが、2020 年度においては、オリエンテーションの見直しを行い、入学時に偏りがちであった日本社会への適応教育を丁度良いタイミングに行えるよう改めた。

## <成績判定と授業評価>

成績判定、進級や卒業認定は、適切に行われている。

## <教育活動を担う教職員>

教員の自己評価は、適切に行われ、機能している。教員・職員の評価制度は、教員・職員評価シートの活用により、順調に機能しており、大きな問題も発生していない。また、教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質については、従来、明示が不十分であったため、2020 年度にそれらの明確化を図り、改善を行った。

## <学修成果>

教育成果の判定は、適切に行われており、進路の把握も漏れなく行われている。また、卒業生の状況把握の仕組みとして、新たにスマートフォン向けアプリを導入し、卒業生の動向把握が可能となる仕組みを整えた。

#### <生徒支援>

適応、生活、進路、在留等の支援は、概ね十分にできている。従来不十分であった危機管理体制の整備は、コロナ禍を機会に幅広く検討し、緊急連絡・安否確認体制の改善や、水害対策等の整備を行った。2021年度は、引き続き、BCP体制の整備を推進する。

#### <進路に関する支援>

進路指導は、体系的に行われている。

#### <入国・在留に関する指導及び支援>

入国・在留に関する指導は、丁寧に定期的に行われている。社会問題となっている資格外活動の時間オーバーについては、オリエンテーションにおいて、アルバイト関連の指導を強化するとともに、Google spread sheetを用いて、学生が定期的に、自分のアルバイト状況を確認、報告する仕組みの導入を行った。

#### <教育環境>

教育環境については、概ね問題はない。

#### <入学者の募集と選考>

学生募集、選考は、概ね問題なく行われているが、コロナ禍により、応募者が激減しており、質の維持とともに、量の確保が課題となっている。

#### <財務>

財務状況については、とりたてて問題はない。

#### <法令遵守>

コンプライアンスに関しては、2017年度に法令遵守の推進体制を定め、現在も推進を行っているところである。

#### <地域貢献・社会貢献>

地域の交流行事には積極的に参加し、かつ地元の日本人を学校に招いて生徒との交流を深めてもらっていたが、コロナ禍により、今年度は、中断している。次年度は、通常の状態に戻しつつ、改めて、地域貢献活動を行いたい。地域の日本語教育を必要とする学習者の受入れも引き続き行っているが、コロナ禍においてオンライン教育が身近になったことから、それらを用いた新たな地域の日本語教育の模索を行いたい。